

だいせんの子



『子ども教育振興計画』 できる

教育委員会ではこのほど、『大山町子ども教育振興計画』をつくりました。

この計画は、子どもたちの“生きる力”の育成をいっそう進めるため、乳幼児期と児童期の教育の指針として、保育と教育の現状と課題、基本的な考え方、重点的に取り組む点や施策などを明らかにしたものです。

保護者や現場の

声をもとに検討

計画策定に先立ち、日々、子どもたちと接している町内の保育所や小学校の教職員などを対象に、日ごろ感じていることや提案などを把握するための記述式アンケートを行いました。また、平成16年に、町内の小学3年生以下の子どもがある全世帯を対象にした「次世代育成支援に関するニーズ調査」が行われていますので、この結果もあわせて策定委員会へ示し、会議での検討資料として活用しました。

策定委員会は、幼児教育の専門家や町内の関係者13人で構成され、6月以降に3回の検討会議を開いたほか、保育所や放課後児童クラブの視察もおこないました。

子どもたちの気になる現状

気になることとして、基本的な生活習慣が定着していない、人の話がきちんと聞けない、また、体力や忍耐力が不足しているなど子どもたちの状況にかかわるもののほか、保護者の価値観・環境・ニーズの多様化や、家庭や地域の教育力の低下、関係機関の連携が不十分などの点があげられました。

計画のねらいと重点

この計画の基本理念は、「大山町で生まれ育つ子どもたちが、豊かな自然環境や温かい人間関係の“恵み”を受けて心身ともに健全に成長し、基本的な生活習慣や忍耐力、思いやりや協調性を身につけ、自分や周りの人やふるさとを愛する心を

もって育つよう、保護者・地域・関係者が連携して取り組む」と、とされました。

そして、本町における子どもの教育の気になる点を検討したうえで、次ページの図のような7つの重点項目を掲げ、それぞれに対応する具体的な施策を定めました。

“親学”のチャンス

子育てについて保護者に学んでいただく、いわゆる“親学”の機会が広がります。

従来から行っている「子育て講座」などのほか、「子育て実践交流会」など、新たな取り組みも行うことになっています。また、一部の保育所でおこなわれている「保護者による保育参加(体験)」をいっそう広めることも提案されています。

なお、計画の推進スローガンは「育てー！心豊かでたくましいだいせんの子」です。計画の取り組みにあたっては、保育所、学校、児童館、公民館、放課後児童クラブなど、関係機関が連携し、家庭や地域の皆さんとともに進めます。